

学 科 名			普 通 科				
教 科	科 目	標 準 単 位 数	4 年	5 年		6 年	
				文	理	文	理
国 語	現代の国語	2	2				
	言語文化	2	2				
	論理国語	4		2	2	2	2
	文学国語	4					
	国語表現	4					
	古典探究	4		5	2	3	2
	国語演習(学)	1		1	1	1	1
地理歴史	地理総合	2	2				
	地理探究	3		3 ^s	2	4 ^s	2
	歴史総合	2	2				2
	日本史探究	3		3 ^s	2	4 ^s	2
	世界史探究	3		3 ^s		4 ^s	
公 民	公共	2	2	3 ^s			
	倫理	2				4 ^s	
	政治・経済	2					
数 学	数学Ⅰ	3	3				
	数学Ⅱ	4	1	2	3	3	
	数学Ⅲ	3			2		4
	数学A	2	2				
	数学B	2		2	1	1	1
	数学C	2		1	1	1	2
理 科	科学と人間生活	2					
	物理基礎	2	2				
	物理	4			4		5
	化学基礎	2	2	1		2	
	化学	4				4	4
	生物基礎	2	2	1		2	
	生物	4			4		5
	地学基礎	2					
地学	4						
保健体育	体 育	7~8	2	2	2	3	3
	保 健	2	1	1	1		
芸 術	音 楽Ⅰ	2		1	1	1	1
	音 楽Ⅱ	2					
	音 楽Ⅲ	2					
	美 術Ⅰ	2		1	1	1	1
	美 術Ⅱ	2					
	美 術Ⅲ	2		1	1	1	1
	工 芸Ⅰ	2					
	工 芸Ⅱ	2					
	工 芸Ⅲ	2					
	書 道Ⅰ	2		1	1	1	1
	書 道Ⅱ	2					
書 道Ⅲ	2						
外 国 語	英語コミュニケーションⅠ	3	3				
	英語コミュニケーションⅡ	4		4	4		
	英語コミュニケーションⅢ	4				4	4
	論理・表現Ⅰ	2	3				
	論理・表現Ⅱ	2		3	2		
	論理・表現Ⅲ	2				2	2
家 庭	家庭基礎	2	2				
	家庭総合	4					
情 報	情報Ⅰ	2		2	2		
	情報Ⅱ	2					
理 数	理数探究基礎	1					
	理数探究	2~5					
宗 教	一般仏教(学)	1	1				
	宗乗・余乗(学)	(3)	(2)	(1)	(1)		
総合的な探究の時間 (実施時間数)		3~6	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)
科目の単位数の計			35	35	35	34	34
特別活動	ホームルーム活動	3	1	1	1	1	1
合 計			36	36	36	35	35

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国語	科目	論理国語	単位数	2単位	履修学年	6年文理
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な文章に対応できる読解力を高めるとともに、ものの見方・感じ方・考え方を深め、自己の人生を模索し、より豊かな内面の錬磨へと導く力を養う。 ・漢字や語彙に関する知識や、現代文読解の素養を身につける。 ・自分の考えをまとめ深めることを通して、的確に表現する能力を身につける。 ・大学入試に向けての総合的な国語力を養う。 						
評価の観点・価値基準	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取る中で、自分の考えを深め、発展させている。〈知識・技能〉 ・必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。〈思考力・判断力・表現力〉 ・国語で理解し表現する力を高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとする。〈主体的に取り組む態度〉 						
使用教材	論理国語（筑摩書房） 〈副教材〉現代文マーク完答24（尚文出版）、グラン現代文（尚文出版）、上究現代文（尚文出版）、即戦ゼミ新国語問題総演習（桐原書店）、上級入試漢字（桐原書店）他						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	ピジンという生き方（管啓次郎） 貨幣共同体（岩井克人） つながりと秩序（北田暁大） ことばへの問い（熊野純彦） 日本文化私観（坂口安吾） 大学入試実践問題演習			<ul style="list-style-type: none"> ・様々な内容を取り扱った文章を読んで、複数のものの見方・考え方を総合して深め、発展させる方法を学ぶ。 ・論述力・表現力を身につけ、豊かな人生を築く総合的な力を養う。 ・大学入試に向けての実践的な力を養う。 			
2	主義は広大なるべき事（福沢諭吉） ものごと（木村敏） 記憶の満点（西谷修） 大学入試実践問題演習			<ul style="list-style-type: none"> ・科学、歴史、文化、言語などあらゆる分野の文章を通して社会や人間、未来についてのものの見方・考え方を深める。 ・大学入試に向けての実践的な力を養う。 			
3	大学入試実践問題演習			<ul style="list-style-type: none"> ・進路目標を達成する力を養う。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・副教材やプリント教材を活用し、より発展的な学習を進める。 ・大学入試を見据え、問題集・プリントなどによる演習の時間を設ける。 ・家庭学習や自主学習のために問題集を適宜用いる。 ・随時、小論文指導・二次対策指導など個別指導を実施する。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国語	科目	国語演習	単位数	1 単位	履修学年	6 年文理
到達目標	<p>【文系】様々な文章に対応できる読解力を高めるとともに、ものの見方・感じ方・考え方を深め、自己の人生を模索し、より豊かな内面の錬磨へと導く力を養う。</p> <p>【理系】大学入試に対応しうる漢文の読解力を強化するとともに、先人の思想や感性にふれることを通して、自己の視野と世界観を広げ、知性と想像力をみがき、人生を豊かにする態度を養う。</p>						
評価の観点・価値基準	<p>【文系】・言語文化および言葉の特徴や決まりなどについての理解を深め、知識を身につけている。〈知識・技能〉</p> <p>・必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。〈思考力・判断力・表現力〉</p> <p>・国語で理解し表現する力を高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとする。〈主体的に取り組む態度〉</p> <p>【理系】・古語の語彙・語法や漢文の基本的な知識を習得することにより、読解力や思考力を身につけ、総合的に国語力を高めている。〈知識・技能〉</p> <p>・古典作品の読解力を高め思考力を深める中で、古代の文化や伝統、風俗・習慣に対する関心や興味を深め、広く現代社会に関する問題意識を持つことができた。〈思考力・判断力・表現力〉</p> <p>・わが国の歴史的経緯や推移を理解すると共に、アジア諸地域との思想的繋がりや連関を理解し、世界におけるわが国の位置づけや方向を考える契機としている。〈主体的に取り組む態度〉</p>						
使用教材	<p>古典探究 漢文編（筑摩書房） 〈副教材〉近現代文学名作選（明治書院）、新明説漢文（尚文出版）、上究古典（尚文出版）、古典マーク完答24（尚文出版）他</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<p>【文系】舞姫（森鷗外） 【理系】 ・舞姫（森鷗外） ・漢文：詩経大序、論文、古体詩</p> <p>大学入試実践問題演習</p>			<p>【文系】論述力・表現力を身につけ、豊かな人生を築く総合的な力を養う。</p> <p>【理系】小説や詩、歴史の読解・鑑賞を通じて古代中国人のものの見方・考え方を味わう。句形の読みと意味を確実にし、用字の用法の理解を深める。</p>			
2	<p>【文系】赤い薔（安部公房） 【理系】漢文：史伝・思想</p> <p>大学入試実践問題演習</p>			<p>【文系】社会や人間、未来についてのものの見方・考え方を深める。</p> <p>【理系】日本の文化・文学に大きな影響を与えた古代中国の様々な思想・理念を学び、その豊かさや普遍性への理解を深める。</p>			
3	<p>大学入試実践問題演習</p>			<p>共通テストや大学入試問題対策を意識した演習を行う。私立大学や二次試験対策を念頭に置き、多数の作品を読み進め、理解を深める。</p>			
学習上の留意点	<p>・副教材やプリント教材を活用し、教科書本文の関連事項を加え、より発展的な学習を進める。</p> <p>・漢文の基礎事項定着のため、小テストを実施する。</p> <p>・家庭学習や自主学習のために問題集を適宜用いる。</p> <p>・問題集を使用し応用力を養うとともに、文法・語彙力の向上に努める。</p> <p>・共通テスト対策を進める。</p>						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国語	科目	古典探究	単 位 数	3 単位	履修学 年	6 年（文）
到達 目標	大学入試に対応しうる古文・漢文の読解力を強化するとともに、先人の思想や感性にふれることを通して、自己の視野と世界観を広げ、知性と想像力をみがき、人生を豊かにする態度を養う。古典的言語や過去の文化・伝統に対する知識と理解を深めることによって、言語・文化芸術や人間社会についての関心を深め、問題意識を鋭くするとともに、それらのあり方を探求する。						
評価 の観 点・ 評価 基準	古語の語彙・語法や古典の基本的な知識を習得することにより、読解力や思考力を身につけ、総合的に国語力を高めることができた。 古典作品の読解力を高め思考力を深める中で、古代の文化や伝統、風俗・習慣に対する関心や興味を深め、広く現代社会に関する問題意識を持つことができた。 わが国の歴史的経緯や推移を理解すると共に、アジア諸地域との思想的繋がりや連関を理解し、世界におけるわが国の位置づけや方向を考える契機となった。						
使用 教材	古典探究（筑摩書房・古文編漢文編第二部を中心に） （副教材）新明説総合古典文法（尚文出版） 必携新明説漢文（尚文出版） 古典読解問題集標準・上級編（駿台文庫） 共通テスト・センター試験国語過去問題古典編（尚文出版）他						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	【古文】源氏物語・紫式部日記等の日記文学 【漢文】思想・不死之薬・捕蛇者之説			文章の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。古典的思想を理解し、日本文化の特質を考える。 小説や詩、歴史の読解・鑑賞を通じて古代中国人のものの見方・考え方を味わう。句形の読みと意味を確実にし、用字の用法の理解を深める。			
2	【古文】無名抄・毎月抄・無名草子 風姿花伝 【漢文】老子・荘子・韓非子・墨子 共通テスト・私大・国公立個別試験演習			様々な分野の作品を読むことにより、自然・人間・社会・芸術などに対する古代人の感性に触れ、古典の世界におけるものの見方を知る。 日本の文化・文学に大きな影響を与えた古代中国の様々な思想・理念を学び、その豊かさや普遍性への理解を深める。			
3	共通テスト・私大国公立個別試験演習			共通テストなど大学入試問題対策を意識しての演習。私立大学・二次試験対策を念頭に置き、多数の作品を読み進め理解を深める。			
学習 上の 留意 点	副教材やプリント教材を活用し、教科書本文の関連事項を加え、より発展的な学習を進める。 古典の基礎事項定着のため、小テストを実施する。 家庭学習や自主学習のために問題集を適宜用いる。 問題集を使用し応用力を養うとともに、文法、語彙力の向上に努める。 共通テスト対策を進める。						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国語	科目	古典探究	単位 数	2 単位	履修学 年	6 年（理）
到達 目標	<p>大学入試に対応しうる古文・漢文の読解力を強化するとともに、先人の思想や感性にふれることを通して、自己の視野と世界観を広げ、知性と想像力をみがき、人生を豊かにする態度を養う。古典的言語や過去の文化・伝統に対する知識と理解を深めることによって、言語・文化芸術や人間社会についての関心を深め、問題意識を鋭くするとともに、それらのあり方を探求する。</p>						
評価 の観 点・ 評価 基準	<p>古語の語彙・語法や古典の基本的な知識を習得することにより、読解力や思考力を身につけ、総合的に国語力を高めることができた。 古典作品の読解力を高め思考力を深める中で、古代の文化や伝統、風俗・習慣に対する関心や興味を深め、広く現代社会に関する問題意識を持つことができた。 わが国の歴史的経緯や推移を理解すると共に、アジア諸地域との思想的繋がりや連関を理解し、世界におけるわが国の位置づけや方向を考える契機となった。</p>						
使用 教材	<p>古典探究（筑摩書房・古文編第二部を中心に） 〈副教材〉新明説総合古典文法（尚文出版） 古典読解問題集標準・上級編（駿台文庫） 共通テスト・センター試験国語過去問題古典編（尚文出版）他</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	【古文】源氏物語・紫式部日記等の日記文学			文章の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。古典的思想を理解し、日本文化の特質を考える。			
2	【古文】無名抄・毎月抄・無名草子 風姿花伝 共通テスト・私大・国公立個別試験演習			様々な分野の作品を読むことにより、自然・人間・社会・芸術などに対する古代人の感性に触れ、古典の世界におけるものの見方を知る。			
3	共通テスト・私大・国公立個別試験演習			共通テストなど大学入試問題対策を意識しての演習。私立大学・二次試験対策を念頭に置き、多数の作品を読み進め理解を深める。			
学習 上の 留意 点	<p>副教材やプリント教材を活用し、教科書本文の関連事項を加え、より発展的な学習を進める。 古典の基礎事項定着のため、小テストを実施する。 家庭学習や自主学習のために問題集を適宜用いる。 問題集を使用し応用力を養うとともに、文法、語彙力の向上に努める。 共通テスト対策を進める。</p>						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	4 単位	履修学年	6 年文系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本史の流れを理解し、歴史的考察力を身に付ける。 ・個々の歴史的事象を、因果関係の中で理解する態度を身に付ける。 ・諸資料から、歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。 ・歴史上に見られる課題を把握・検討し、それらを適切に表現する力を養う。 ・歴史の変化に関わる諸事象について、その課題を主体的に追究、解決する態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・歴史の変化について、広く相互的な視野から捉え、理解できているか。 ・諸資料から、歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができているか。 						
	【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none"> ・歴史の変化に関わる諸事象について、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目し、多面的・多角的に考察できているか。 ・歴史上に見られる課題を把握・検討し、またそれらを適切に表現できているか。 						
	【主体的に学習に取り組む態度】 <ul style="list-style-type: none"> ・時代の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、主体的に課題を追究しようとしているか。 						
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『詳説日本史』（山川出版社） ・副教材『新詳日本史』（浜島書店） ・副教材『新日本史要点ノート標準編』（啓隆社） 						
1	4 月 幕藩体制の成立と展開 幕藩体制の動揺			<ul style="list-style-type: none"> ・幕藩体制の展開を把握し、各時代の為政者が、どのような政策で対応したのかを考える。 			
	5 月 近世から近代へ 近代国家の成立			<ul style="list-style-type: none"> ・日本の開国に至る経緯を、国際情勢を踏まえて立体的に捉える。 			
2	6 月 近代国家の展開 近代の産業と生活			<ul style="list-style-type: none"> ・日本の近代化の過程を、政治・社会・文化の各側面から理解する。 			
	7 月 恐慌と第二次世界大戦			<ul style="list-style-type: none"> ・日本が、複雑な国内情勢と国際関係の中で大戦を迎え、敗戦に至る過程を把握する。 			
	9 月 占領下の日本 高度成長の時代			<ul style="list-style-type: none"> ・戦後の日本が復興、国際社会への復帰を果たす過程を、国際情勢の変化と共に理解する。 			
3	10 月 激動する世界と日本			<ul style="list-style-type: none"> ・経済大国となった日本の、現代における諸課題について考える。 			
	10 月以降 問題演習			<ul style="list-style-type: none"> ・日本史学習の総括として、時期や個々の生徒の希望に即し、共通テスト、国公立大 2 次試験、私立大入試に対応した演習を行う。 			
3	1 月 問題演習			<ul style="list-style-type: none"> ・直前に迫った共通テストに対応すべく、問題演習を行う。 			
	<ul style="list-style-type: none"> ・各事象の因果関係や、後世への影響について、常に留意しつつ、理解を深めさせる。 ・図説、史料などの補助資料を活用し、史資料読解に積極的に取り組む。 ・生徒自身が学習内容について主体的に考え、更にそれを表現する機会を多く設ける。 ・発問や小テストなどを通じて知識の定着を図る。 						
学習上の留意点							

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	地理歴史	科目	世界史探究	単位数	4 単位	履修学年	6 年文系
到達 目標	<p>1. 5年の学習を継続し、現代にいたる世界史学習を通して、現代世界の形成の世界史的過程と特色について理解させ、世界の諸地域の相互交流を広い視野から考察させる。</p> <p>2. 世界の歴史への興味・関心を高め、主体的に探究していく態度を養う。</p> <p>3. 歴史的思考力を培い、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を養う。</p> <p>4. 現代社会が直面する諸課題について認識を深めさせる。</p>						
評価 の観 点・ 評価 基準	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で扱っている範囲・テーマに対して関心を持ち、意欲的態度で授業に臨んでいるか。 ・各範囲の学習内容を全体的・構造的視野から理解し、基本的知識を身につけているか。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的事象について考察し、判断しているか。 ・副教材や教科書等の諸資料を活用し、考察した過程や結果を適切に表現できるか。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代や地域の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、主体的に課題を追究しようとしているか。 ・授業・課題提出・定期考査などを通して、以上の観点から評価する。 						
使用 教材	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 『詳説 世界史』 山川出版社 ・副教材 『最新世界史図説タペストリー』 帝国書院 新世界史要点ノート(応用編) 啓隆社 						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<p>第9章 大交易・大交流の時代</p> <p>第10章 アジアの諸帝国の繁栄</p> <p>第11章 近世ヨーロッパ世界の動向</p> <p>第12章 産業革命と環大西洋革命</p> <p>第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成</p> <p>第14章 アジア諸地域の動揺</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・大航海時代に象徴される世界の一体化が近代世界システムを出現させたこと、それに伴う各国の国情を理解する。 ・世界の諸地域の国家がどのような変遷で形成されてきたのかを俯瞰する。 ・アジア地域の繁栄が近代世界システムの枠組みと関わり、もたらされていることを理解する。 ・大航海時代に象徴される世界の一体化が近代世界史システムを出現させたこと、それに伴う各国の国情を理解する。 ・主権国家が成立するヨーロッパ世界において、革命を経て、市民の政治参加への道が開かれ、近代市民国家へと成長していく過程を理解する。 			
2	<p>第15章 帝国主義とアジアの民族運動</p> <p>第16章 第一次世界大戦と世界の変容</p> <p>第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成</p> <p>第18章 冷戦と第三世界の台頭</p> <p>第19章 冷戦の終結と今日の世界</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・帝国主義と世界分割競争が二度の世界大戦の要因となり、大戦を通じて形成されていくナショナリズム、植民地の民族運動を理解させる。 ・東西冷戦体制の成立とその世界化の諸状況について理解させ、核の脅威と平和の意義について考察させる。 ・アジア・アフリカ諸国の独立による第三勢力台頭と、対立や残された諸課題について考察させる。 ・冷戦後における世界経済のグローバル化と、それにともない発生した諸問題、地域経済圏形成の動きなどについて理解する。 			
3	演習						
学習 上の 留意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的知識を身につけさせる。 ・学習の中で現代社会成立までの過程を振り返り、人類の歩いてきた道を考えることで、歴史的考察力や判断力を培い激動する社会に主体的に対応できる資質と力を身につけさせる。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	地理歴史	科目	地理探究	単位数	4 単位	履修学年	6 年文系
到達目標	<p>① 地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因を捉える学習を通して、現代世界の諸事象の地理的認識を深めるとともに、系統地理的な考察方法を身に付ける。</p> <p>② ①をふまえ、選択した地域の特性とそこで発生する諸課題について捉える学習を通して、現代世界の諸地域の地理的認識を深めるとともに、地誌的な考察方法を身に付ける。</p> <p>③ ①、②をふまえ、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や持続可能な国土像の在り方を構想する学習を通して、現代世界における日本の現状と望ましい将来像についての認識を深めるとともに、主体的な学習活動である探究の手法を身に付ける。</p>						
評価の観点・評価規準	<p>【知識・技能】</p> <p>○地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因について理解することで、現代世界の諸事象の地理的認識を深めている。</p> <p>○地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、世界諸地域の特性とそこで発生する諸課題について理解することで、現代世界の諸地域についての地理的認識を深めている。</p> <p>○調査、討論、発表などの探究的な学習を通して、現代世界における日本の現状について理解することで、望ましい将来像についての認識を深めている。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>○地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。</p> <p>○考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>○知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。</p> <p>○よりよい社会の実現を視野に、世界諸地域や日本において見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p> <p>○地理的な課題への多面的・多角的な考察や深い理解を通して市民としての自覚を持つとともに、社会へ参画することへの意識が高まっている。</p>						
評価の方法	<p>○年 4 回実施の定期考査では、出題範囲における知識と資料活用の技能の習得状況、思考力・判断力・表現力を評価する。</p> <p>○課題学習で提出されるレポートを評価のための資料とする。</p> <p>○日頃の学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容を評価のための資料とする。</p> <p>○評定は、上記の方法で得られた評価に関する情報を総合的に判断して行うものとする。</p>						
使用教材	<p>東京書籍「地理探究」（地探 7 0 1） 帝国書院「新詳高等地図」（地図 3 1 0）</p> <p>副教材 帝国書院「詳説地理資料COMPLETE2022」</p>						
1	<p>第 5 章 生活文化、民族・宗教</p> <p>第 3 節 民族問題</p> <p>第 4 節 現代の国家と領土問題</p>			<p>世界の多様な民族問題 紛争と難民 領土問題の要因と解決への取り組み</p>			
	<p>第 2 編 現代世界の地誌的考察</p> <p>第 2 章 現代世界の諸地域</p> <p>第 1 節 東アジア</p> <p>第 2 節 東南アジア</p> <p>第 3 節 南アジア</p> <p>第 4 節 西アジアと中央アジア</p> <p>第 5 節 北アフリカとサハラ以南アフリカ</p>			<p>中国の改革開放と急速に進む工業化 農村の近代化と都市化</p> <p>環境問題、格差問題などの課題</p> <p>東南アジアの多様な文化 国家間の格差 ASEAN</p> <p>グローバル化と南アジアの経済発展 南アジア世界の多様性と統一性</p> <p>多様な文化のなりたち、モノカルチャー経済克服の課題、アフリカの発展と新たな課題</p>			

2	<p>第6節 ヨーロッパ</p> <p>第7節 ロシア</p> <p>第8節 アングロアメリカ</p> <p>第9節 ラテンアメリカ</p> <p>第10節 オセアニア</p>	<p>ヨーロッパ統合の流れ、ヨーロッパの農業とその変容、ヨーロッパの産業と変容、EUの拡大と地域格差、揺らぐ「1つのヨーロッパ」</p> <p>多様な民族と宗教、ポスト社会主義時代の暮らし、周辺国との産業・資源をめぐる関係の変化</p> <p>アングロアメリカの農業、多民族がかかえる問題、世界最大のアメリカ経済、先端産業の発展と鉱工業地域の変化、情報社会に移行する大都市圏</p> <p>ラテンアメリカの成り立ち、ラテンアメリカの産業の発展と経済成長、森林破壊などの問題</p> <p>多文化共生の課題、オセアニアの資源と産業、オセアニアと他地域との結びつき</p>
3		
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地理総合で取り扱った内容は復習にとどめる。 ・ 基礎的知識の徹底をはかる。 ・ 各地域世界の特徴を知るとともに、世界における日本の位置を把握させる。 ・ 講義式の学習形態だけでなく、発表やテーマに沿った学習などを積極的に活用し、生徒自身の授業への積極的参加を求めている。 	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	公民	科目	倫理	単位数	4 単位	履修学年	6年文系
到達目標	<p>「人間の存在や価値についての理解と思索を深め、自主的な人格の形成に努める実践的な態度を育てる」ことがねらいとなる。すなわち、人間の価値やよりよい生き方についての客観的な理解を深めることと、自分自身の人格を自己研究する主体的な態度を育むことを目的とし、思想史を軸に先哲の思想を学習する、世界宗教や東洋思想に触れる中で普遍的な人間像を求め、多角的な視点から現代社会における人間の尊厳ある姿を求める。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】・各の宗教や哲学思想のキーワードとなる語句や特徴を理解しているか。 ・近代的な意識変化や思想を理解できているか。 【思考・判断力・表現力】 ・自由や幸福などの抽象的概念を自らの思考・生活に引き込み、具体的・論理的に理解・追求できているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・現代社会の課題を理解し、宗教や先の哲学を参考にして、それに対する主体的な考え、判断を多角的・論理的に構成できるか。</p>						
使用教材	<p>教科書「高等学校 新倫理」（清水書院） 資料集「最新図説 倫理」（浜島書店）</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<p>第1編「現代に生きる自己の課題」 第1章 人間とは何か 第2編「人間としての自覚と生き方」 古代ギリシア哲学 キリスト教・イスラム・仏教 古代中国思想 ほか 第3編「現代社会と倫理」 ルネサンス・宗教改革 近代科学の思想・民主社会の思想 人間性の回復・理性の見直し・他者の尊重</p>			<p>・人生の意義と課題をみつめ、哲学や宗教がそれをどのようにとらえるかを理解し、自己の価値観を考える ・人間にとって自由や幸福がどのようなものであるのかを個人と時代や社会との関わりを通して考える ・西洋近代における理性とは何か、またその問題点は何かということを理解させる ・西洋近代自然観に基づく現代科学文明とその歪みを理解し、これから求めるべき自然観の姿を考える</p>			
2	<p>第4編「国際社会における日本人の自覚」 1 日本の風土と伝統 2 仏教 3 儒教 4 国学と庶民思想 5 明治の思想 第5編「現代の諸課題と倫理」 1 生命の倫理 2 環境の倫理 3 現代の家族 4 地域社会 5 情報社会 6 国際社会 復習と問題演習</p>			<p>・日本の風土と積み重ねられてきた歴史・思想の中で、それぞれの思想の特徴を読み取り、私たちへの影響について考える。 ・生や死の概念の問い直しや現代の家族問題をはじめとして現代社会を取り巻く状況を理解し、21世紀を生きる人間像を考える</p>			
3	復習と問題演習						
学習上の留意点	<p>・哲学では、難解で抽象的な概念が多く登場するが、それを言葉のみ覚えるのではなく、具体的に身近な事例に置き換えて、得心できるような授業構成をとる。 ・すべての学習内容において、発問や思想上の問いかけを通して、いま私の生活、生きるスタンスを見直す契機となるよう心がける。</p>						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	2単位	履修学年	6年理系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本史の流れを理解し、歴史的考察力を身に付ける。 ・個々の歴史的事象を、因果関係の中で理解する態度を身に付ける。 ・諸資料から、歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。 ・歴史上に見られる課題を把握・検討し、それらを適切に表現する力を養う。 ・歴史の変化に関わる諸事象について、その課題を主体的に追究、解決する態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・歴史の変化について、広く相互的な視野から捉え、理解できているか。 ・諸資料から、歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができているか。 						
	【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none"> ・歴史の変化に関わる諸事象について、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目し、多面的・多角的に考察できているか。 ・歴史上に見られる課題を把握・検討し、またそれらを適切に表現できているか。 						
	【主体的に学習に取り組む態度】 <ul style="list-style-type: none"> ・時代の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、主体的に課題を追究しようとしているか。 						
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『詳説日本史』（山川出版社） ・副教材『新詳日本史』（浜島書店） ・副教材『新日本史要点ノート標準編』（啓隆社） 						
1	4月 幕藩体制の成立と展開 幕藩体制の動揺			<ul style="list-style-type: none"> ・幕藩体制の展開を把握し、各時代の為政者が、どのような政策で対応したのかを考える。 			
	5月 近世から近代へ 近代国家の成立			<ul style="list-style-type: none"> ・日本の開国に至る経緯を、国際情勢を踏まえて立体的に捉える。 			
2	6月 近代国家の展開 近代の産業と生活			<ul style="list-style-type: none"> ・日本の近代化の過程を、政治・社会・文化の各側面から理解する。 			
	7月 恐慌と第二次世界大戦			<ul style="list-style-type: none"> ・日本が、複雑な国内情勢と国際関係の中で大戦を迎え、敗戦に至る過程を把握する。 			
	9月 占領下の日本 高度成長の時代			<ul style="list-style-type: none"> ・戦後の日本が復興、国際社会への復帰を果たす過程を、国際情勢の変化と共に理解する。 			
3	10月 激動する世界と日本			<ul style="list-style-type: none"> ・経済大国となった日本の、現代における諸課題について考える。 			
	11月以降 問題演習			<ul style="list-style-type: none"> ・日本史学習の総括として、共通テストに対応した演習を行う。 			
3	1月 問題演習			<ul style="list-style-type: none"> ・直前に迫った共通テストに対応すべく、問題演習を行う。 			
	<ul style="list-style-type: none"> ・各事象の因果関係や、後世への影響について、常に留意しつつ、理解を深めさせる。 ・図説、史料などの補助資料を活用し、史資料読解に積極的に取り組む。 ・生徒自身が学習内容について主体的に考え、更にそれを表現する機会を多く設ける。 ・発問や小テストなどを通じて知識の定着を図る。 						
学習上の留意点							

科目の年間授業計画

教科	地理歴史	科目	地理探究	単位数	2単位	履修学年	6年理系
到達目標	4, 5年で学習した系統地理的な内容を, 世界各地の地誌学習を通し, 理解を深めていく。各種の演習問題を解くことにより, 基礎知識の定着をはかり, また読図, 分析能力を高めることにより大学入試に対応できる能力を高める。						
評価の観点・評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代社会におけるさまざまな問題について, 意欲的に取り組むとともに, それらの多様性や地域性をとらえる視点や方法を身に付けようとしているか。 ・ 地形の特徴と人間生活への影響に関する地理的事象から課題を設定し, 追究するとともに, 系統地理的にとらえる視点や方法を考察しているか。 ・ 資料や情報を系統地理的に追究する技能を身に付けるとともに, 結果をまとめたり発表したりしているか。 ・ 地形の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観するとともに, 系統地理的にとらえる視点や方法を理解し, それらの知識を身に付けているか。 						
使用教材	教科書「地理探究」(東京書籍) 「新詳高等地図」(帝国書院) 副教材「新詳地理資料 COMPLETE2022」(帝国書院)						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第2編 現代世界の地誌的考察 第2章 現代世界の諸地域 ・ 東アジア, 東南アジア, 南アジア, 西アジアと中央アジア ・ 北アフリカとサハラ以南のアフリカ			<ul style="list-style-type: none"> ・ 中国, 韓国等, 近隣諸国の地誌を学習しながら地誌学習の手法を身につけさせる。 ・ 問題演習を行うことにより, 知識, 分析能力等の定着をはかる。 			
2	第III部 現代世界の地誌的考察 ・ ヨーロッパ, ロシア, アングロアメリカ ・ ラテンアメリカ, オセアニア 上記の各地域が終わり次第, 演習を行う						
3							
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的知識の徹底をはかる。 ・ 各地域世界の特徴を知るとともに, 世界における日本の位置を把握させる。 ・ 講義式の学習形態だけでなく, 発表やテーマに沿った学習などを積極的に活用し, 生徒自身の授業への積極的参加を求めていく。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数 学	科目	数 学 Ⅱ	単位数	3 単 位	履修学年	6 年 文 系
到達 目標	方程式・式と証明、図形と方程式、いろいろな関数、及び微分法・積分法の考え方を理解し、基礎的な事項の知識を習得し、事象を数学的に処理する能力を伸ばす。それとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識する。						
評価 の観 点・ 評価 基準	【知識・技能】 基本的な概念や原理・法則の体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身についているか。						
	【思考・判断・表現】 事象を簡潔・明瞭・的確に表現し、論理的に考察する力、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が養われているか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度が養われているか。						
	【基準】 定期考査・長期休暇明けのテスト・小テストの得点、授業中での講義を聴く態度、授業内容に関する質問を意欲的にするかどうか、演習授業での発表の内容、家庭学習課題の出来具合、授業中での質問・意見を基に総合的に評価する。						
使用 教材	教科書：数研出版「数学Ⅱ」 副教材：数研出版「クリア数学演習ⅠⅡAB」 駿台文庫「大学入学共通テスト単元別問題集」						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	数学Ⅱ 第1章 式と証明演習			問題演習を重ねることにより、等式・不等式の証明の技能を高める。			
	数学Ⅱ 第2章 複素数と方程式演習			問題演習を重ねることにより、2次方程式、2次不等式の理論に習熟する。			
	数学Ⅱ 第3章 図形と方程式演習			問題演習を重ねることにより、座標平面上の図形についてその性質や特徴を研究し、問題解決の技術を磨く。			
2	数学Ⅱ 第4章 三角関数演習			問題演習を重ねることにより、やや複雑な三角方程式、三角不等式が解けるようになり、それによって、三角関数の扱いに習熟する。			
	数学Ⅱ 第5章 指数関数と対数関数演習			問題演習を重ねることにより、指数・対数の扱いに習熟し、より深く指数関数・対数関数の性質を理解する。			
	数学Ⅱ 第6章 微分法と積分法演習			問題演習を重ねることにより、微分法・積分法の扱いに慣れ、3次関数及びそのグラフの性質や特徴について、より深く理解する。			
3	総合演習			これまでに得た知識や技能をいかして、いろいろな数学的事象を総合的に理解し、問題を解			

	くことができるようにする。
学習上の留意点	授業では、問題集を使って演習を行います。授業に臨むにあたり、前もって問題に取り組んでおくことは必要不可欠です。また、授業内容をその日のうちにもう一度確認することも理解を深めるうえで大切なことです。

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数 学	科目	数 学 B	単位数	1 単 位	履修学年	6 年 文 系
到達 目標	数列及び統計的な推測について理解し、基礎的な事項の知識を習得し、事象を数学的に処理する能力を伸ばす。それとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識する。						
評価 の観 点・ 評価 基準	【知識・技能】 基本的な概念や原理・法則の体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身についているか。						
	【思考・判断・表現】 事象を簡潔・明瞭・的確に表現し、論理的に考察する力、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が養われているか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度が養われているか。						
	【基準】 定期考査・長期休暇明けのテスト・小テストの得点、授業中での講義を聴く態度、授業内容に関する質問を意欲的にするかどうか、演習授業での発表の内容、家庭学習課題の出来具合、授業中での質問・意見を基に総合的に評価する。						
使用 教材	教科書：数研出版「数学B」 副教材：数研出版「クリア数学演習ⅠⅡAB」 駿台文庫「大学入学共通テスト単元別問題集」						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	数学B 第1章 数列演習			問題演習を重ねることにより、いろいろな数列や漸化式に関する問題の解法に習熟するとともに、数学的帰納法を扱う技能を高める。			
2	数学B 第2章 統計的な推測演習			問題演習を重ねることにより、確率分布や統計的な推測に関する問題の解法に習熟する。			
3	総合演習			これまでに得た知識や技能をいかして、いろいろな数学的事象を総合的に理解し、問題を解くことができるようにする。			
学習 上の 留意 点	授業では、問題集を使って演習を行います。授業に臨むにあたり、前もって問題に取り組んでおくことは必要不可欠です。また、授業内容をその日のうちにもう一度確認することも理解を深めるうえで大切なことです。						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数 学	科目	数 学 C	単位数	1 単 位	履修学年	6 年 文 系
到達 目標	平面ベクトル及び空間ベクトルについて理解し、基礎的な事項の知識を習得し、事象を数学的に処理する能力を伸ばす。それとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識する。						
評価 の観 点・ 評価 基準	【知識・技能】 基本的な概念や原理・法則の体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身についているか。						
	【思考・判断・表現】 事象を簡潔・明瞭・的確に表現し、論理的に考察する力、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が養われているか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度が養われているか。						
	【基準】 定期考査・長期休暇明けのテスト・小テストの得点、授業中での講義を聴く態度、授業内容に関する質問を意欲的にするかどうか、演習授業での発表の内容、家庭学習課題の出来具合、授業中での質問・意見を基に総合的に評価する。						
使用 教材	教科書：数研出版「数学C」 副教材：数研出版「クリア数学演習ⅠⅡAB」 駿台文庫「大学入学共通テスト単元別問題集」						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	数学B 第1章 平面上のベクトル演習			問題演習を重ねることにより、平面上のベクトルの演算や成分、ベクトル方程式についての理解を深め、平面図形のいろいろな問題の解法に習熟する。			
2	数学B 第2章 空間のベクトル演習			問題演習を重ねることにより、空間内のベクトルの演算や成分、位置ベクトルについての理解を深め、空間図形のいろいろな問題の解法に習熟する。			
3	総合演習			これまでに得た知識や技能をいかして、いろいろな数学的事象を総合的に理解し、問題を解くことができるようにする。			
学習 上の 留意 点	授業では、問題集を使って演習を行います。授業に臨むにあたり、前もって問題に取り組んでおくことは必要不可欠です。また、授業内容をその日のうちにもう一度確認することも理解を深めるうえで大切なことです。						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数 学	科目	数 学 Ⅲ	単位数	4 単 位	履修学年	6 年 理 系
到達 目標	微分法・積分法、及び数列の極限や級数、関数の極限の考え方を理解し、基礎的な事項の知識を習得し、事象を数学的に処理する能力を伸ばす。それとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識する。						
評価 の観 点・ 評価 基準	【知識・技能】 基本的な概念や原理・法則の体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身についているか。						
	【思考・判断・表現】 事象を簡潔・明瞭・的確に表現し、論理的に考察する力、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が養われているか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度が養われているか。						
	【基準】 定期考査・長期休暇明けのテスト・小テストの得点、授業中での講義を聴く態度、授業内容に関する質問を意欲的にするかどうか、演習授業での発表の内容、家庭学習課題の出来具合、授業中での質問・意見を基に総合的に評価する。						
使用 教材	教科書：数研出版「数学Ⅲ」 副教材：数研出版「4STEP数学Ⅲ」「チャート式基礎からの数学Ⅲ」						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	数学Ⅲ 第4章 微分法の応用			微分の考え方を利用して、接線・法線の方程式を求めたり、関数の値の増減や極値、凹凸、最大・最小を求めてグラフが描けるようにしたりする。さらに、関数のグラフを利用し、方程式や不等式に関する問題を解くことができるようにする。また、速度・加速度を求めたり、1次の近似式の考え方を理解して簡単な近似式を作ったりすることができるようにする。			
	数学Ⅲ 第5章 積分法			置換積分法・部分積分法を理解し、いろいろな関数の不定積分を求めることができるようにする。また、置換積分法・部分積分法を用いて、定積分を計算することができるようにする。また、区分求積法の考え方を理解し、面積の計算に利用できるようにする。			
	数学Ⅲ 第6章 積分法の応用			いろいろな関数のグラフや、媒介変数で表された曲線で示される図形の面積を、定積分を計算することで求めることができるようにする。また、立体の体積をその断面積に着目することで求めることができるようにする。さらに、曲線の長さ、速度と道のりの求め方を理解し、簡単な微分方程式を解くことができるようにする。			
	関数・極限演習			問題演習を重ねることにより、関数・極限の			

2	微分法・積分法演習	<p>性質や特徴についての理解を深める。</p> <p>問題演習を重ねることにより、微分・積分の考え方を利用した問題解法の技術を磨く。</p>
3	総合演習	<p>これまでに得た知識や技能をいかして、いろいろな数学的事象を総合的に理解し、問題を解くことができるようにする。</p>
学習上の留意点	<p>授業では、問題集を使って演習を行います。授業に臨むにあたり、前もって問題に取り組んでおくことは必要不可欠です。また、授業内容をその日のうちにもう一度確認することも理解を深めるうえで大切なことです。</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数 学	科目	数 学 B	単位数	1 単 位	履修学年	6 年 理 系
到達 目標	統計的な推測、数列の考え方を理解し、基礎的な事項の知識を習得し、事象を数学的に処理する能力を伸ばす。それとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識する。						
評価 の観 点・ 評価 基準	【知識・技能】 基本的な概念や原理・法則の体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身についているか。						
	【思考・判断・表現】 事象を簡潔・明瞭・的確に表現し、論理的に考察する力、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が養われているか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度が養われているか。						
	【基準】 定期考査・長期休暇明けのテスト・小テストの得点、授業中での講義を聴く態度、授業内容に関する質問を意欲的にするかどうか、演習授業での発表の内容、家庭学習課題の出来具合、授業中での質問・意見を基に総合的に評価する。						
使用 教材	教科書：数研出版「数学B」 副教材：数研出版「4STEP数学B」「チャート式基礎からの数学B」						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第2章 統計的な推測 第2節 統計的な推測			正規分布を用いた区間推定及び仮説検定の方法を理解する。また、目的に応じて標本調査を設計し、収集したデータを基にコンピュータなどの情報機器を用いて処理するなどして、母集団の特徴や傾向を推測し判断するとともに、標本調査の方法や結果を批判的に考察できるようにする。			
2	第1章 数列演習 第2章 統計的な推測演習			問題演習を重ねることにより、いろいろな数列や漸化式に関する問題の解法に習熟するとともに、数学的帰納法を扱う技能を高める。 問題演習を重ねることにより、確率分布や統計的な推測に関する問題の解法に習熟する。			
3	総合演習			これまでに得た知識や技能をいかして、いろいろな数学的事象を総合的に理解し、問題を解くことができるようにする。			
学習 上の 留意 点	授業では、問題集を使って演習を行います。授業に臨むにあたり、前もって問題に取り組んでおくことは必要不可欠です。また、授業内容をその日のうちにもう一度確認することも理解を深めるうえで大切なことです。						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数 学	科目	数 学 C	単位数	2 単 位	履修学年	6 年 理 系
到達 目標	複素数平面や式と曲線、ベクトルの考え方を理解し、基礎的な事項の知識を習得し、事象を数学的に処理する能力を伸ばす。それとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識する。						
評価 の観 点・ 評価 基準	【知識・技能】 基本的な概念や原理・法則の体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身についているか。						
	【思考・判断・表現】 事象を簡潔・明瞭・的確に表現し、論理的に考察する力、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が養われているか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度が養われているか。						
	【基準】 定期考査・長期休暇明けのテスト・小テストの得点、授業中での講義を聴く態度、授業内容に関する質問を意欲的にするかどうか、演習授業での発表の内容、家庭学習課題の出来具合、授業中での質問・意見を基に総合的に評価する。						
使用 教材	教科書：数研出版「数学C」 副教材：数研出版「4STEP数学C」「チャート式基礎からの数学C」						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	数学C 第4章 式と曲線 第1節 2次曲線 第2節 媒介変数表示と極座標			放物線、楕円、双曲線について、幾何学的な定義に基づいて曲線の方程式を導き、それぞれの曲線の基本的な性質について理解する。 放物線、楕円を媒介変数で表すことから始めて、より一般の曲線の媒介変数表示について理解する。			
2	数学C 第1章 第2章 ベクトル演習 数学C 第3章 複素数平面演習 数学C 第4章 式と曲線演習			問題演習を重ねることにより、ベクトルの演算や成分、位置ベクトル、ベクトル方程式についての理解を深め、平面図形及び空間図形のいろいろな問題の解法に習熟する。 問題演習を重ねることにより、複素数平面の性質や特徴についての理解を深める。 問題演習を重ねることにより、式と曲線の性質や特徴についての理解を深める。			
3	総合演習			これまでに得た知識や技能をいかして、いろいろな数学的事象を総合的に理解し、問題を解くことができるようにする。			
学習 上の 留意 点	授業では、問題集を使って演習を行います。授業に臨むにあたり、前もって問題に取り組んでおくことは必要不可欠です。また、授業内容をその日のうちにもう一度確認することも理解を深めるうえで大切なことです。						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	化学基礎	単位数	2	履修学年	6年文系
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・物質とその変化への関心を高め、日常生活や社会とのつながりを考えさせる。 ・化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。 						
評価 の観 点・ 評価 基準	<p>【知識・技能】</p> <p>身近な自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。</p>						
使用 教材	<p>教科書：化学基礎（数研出版）</p> <p>副教材：サイエンスビュー化学総合資料（実教出版），ベストフィット化学基礎（実教出版）</p> <p>共通テスト対策問題集</p>						
1	<p><演習></p> <p>第1編 物質の構成と化学結合</p> <p>第1章 物質の構成</p> <p>第2章 物質の構成粒子</p> <p>第3章 粒子の結合</p> <p>第2編 物質の変化</p> <p>第1章 物質と化学反応式</p> <p>第2章 酸と塩基の反応</p> <p>第3章 酸化還元反応</p>		<p>演習問題に取り組み、理解を深める。</p>				
2	<p>共通テスト対策</p>		<p>演習問題に取り組み、理解を深める。</p>				
3	<p>共通テスト対策</p>		<p>演習問題に取り組み、理解を深める。</p>				
学習 上の 留意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に集中し、積極的な学習態度で臨むこと。 ・化学の基本的な概念や原理・法則を理解し活用できるようにするとともに、応用力を身につけること。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	生物基礎	単位数	2 単位	履修学年	6 年文系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 生物や生物現象にかかわる基礎的な内容、身の回りの自然や日常生活や社会との関連性を意識しながら理解し、基礎的な素養を身に付ける。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。</p>						
使用教材	教科書：生物基礎（数研出版） 副教材：スクエア最新図説生物 neo（第一学習社） 問題集：リードα生物基礎（数研出版）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. エネルギーと代謝 3. 呼吸と光合成 第2章 遺伝子とのはたらき 1. 遺伝情報とDNA 2. 遺伝情報の複製と分配 3. 遺伝情報の発現 第2編 ヒトの体内環境の維持 第3章 ヒトの体内環境の維持 1. 体内での情報伝達と調節 2. 体内環境の維持のしくみ 3. 免疫のはたらき 第3編 生物の多様性と生態系 第4章 生物の多様性と生態系 1. 植生と遷移 2. 植生の分布とバイオーム 3. 生態系と生物の多様性 4. 生態系のバランスと保全 共通テスト対策 全範囲の演習			<ul style="list-style-type: none"> 生物の共通性と多様性、細胞の構造とはたらきの理解。 代謝、酵素、生体内におけるエネルギー変換、ミトコンドリアと葉緑体の起源の理解。 DNAの構造と機能の理解。 細胞分裂とDNAの複製、細胞周期とDNAの複製の理解。 遺伝情報の流れ、転写、翻訳、遺伝子の発現と生命現象、ゲノムと遺伝情報の理解。 体内環境と恒常性、体液、自律神経系、ホルモンの理解。 免疫システム、自然免疫、適応免疫、免疫とヒトの理解。 植生と遷移、気候とバイオームの理解。 生態系と物質循環、生態系とエネルギーの流れの理解。 生態系のバランスと保全、生物多様性の保全の理解。 実践的な問題演習を通じて、理解を深め、共通テストに対応できる力を身につける。			
2	共通テスト対策 全範囲の演習			実践的な問題演習を通じて、理解を深め、共通テストに対応できる力を身につける。			
3	共通テスト対策 全範囲の演習			実践的な問題演習を通じて、理解を深め、共通テストに対応できる力を身につける。			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 授業に集中し、積極的な学習態度で臨むこと。 学習内容が定着しているか確認し、応用力を身につけること。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	化 学	単位数	4	履修学年	6 年理系
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・物質とその変化への関心を高め、日常生活や社会とのつながりを考えさせる。 ・目的意識をもって観察・実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てる。 ・化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。 						
評価 の観 点・ 評価 基準	<p>【知識・技能】</p> <p>自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。</p>						
使用 教材	<p>教科書：化学（数研出版）</p> <p>副教材：スクエア最新図説化学（第一学習社），セミナー化学（第一学習社）</p>						
1	第4編 有機化合物 第4章 芳香族化合物 第5編 高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質 第2章 天然高分子化合物 第3章 合成高分子化合物		<ul style="list-style-type: none"> ・芳香族化合物について、化合物相互の関係を反応や構造と関連付けて理解する。 ・天然繊維や食物の主な構成成分である天然高分子化合物の構造や性質について理解する。 ・合成繊維やプラスチックなどの合成高分子化合物の構造、性質及び合成について理解する。 ・高分子化合物が、その特長を活かして人間生活の中で利用されていることを理解する。 				
2	復習・演習		<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習などによって、共通テスト・二次試験に対応できる力を身につける。 				
3	復習・演習		<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習などによって、共通テスト・二次試験に対応できる力を身につける。 				
学習 上の 留意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験を取り入れながら、自然に関心をもち、科学的に探究しようとする態度を養う。 ・中間・定期考査などは、学習内容に合わせて問題を出題する。 ・学習のねらいを実現するため、発展的内容を取り入れる。 ・必要に応じてプリントを用い、演習を行う。 						

科目の年間授業計画(シラバス)

教科	理 科	科目	物 理	単位数	5 単位	履修学年	6 年理系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・力学, 熱力学, 波動, 電磁気学, , 前期量子論の導入について, 基本法則を学び, 物理学の考え方や理論の全体像を知る. ・物理学が日常に関係している有用であることや, 自然科学全体に関わっていることを理解する. ・物理学的なものの見方や, 探究・考察する方法を習得し, 問題解決の能力を身につける. 						
評価の観点・評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能 自然の事物・現象についての概念や原理・法則などの理解や, 科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する知識や技能を観点とし, 定期考査の得点・課題・レポート等を基準として評価する. ・思考・判断・表現 知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力や, 見通しをもって観察・実験などを行い, 得られた結果を分析して解釈し, 表現できているかを観点とし, 定期考査の得点, レポート, 課題等を基準として評価する. ・主体的に学習に取り組む態度 知識・技能・思考・判断・表現などを身に付ける過程で, 見通しを持った振り返りなど, 自ら学習を調整し, 粘り強く学習に取り組んでいるかを観点とし, レポート, 課題, 振り返り評価等を基準として評価する. 						
使用教材	教科書:数研出版 物理 副教材:駿台文庫 理系標準問題集 物理, 大学入学共通テスト 物理 単元別問題集						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第4編 電気と磁気 第2章 電流 オームの法則, 直流回路, 半導体 第3章 電流と地場 磁気力と磁界, 電流がつくる磁界 電流が磁界から受ける力 ローレンツ力 第4章 電磁誘導と電磁波 電磁誘導の法則 磁界中を運動する導体の棒 自己誘導と相互誘導, 交流 電気振動と電磁波			電場の定義を原理として, 電流の定義, オームの法則, ジュール熱などの基本を理解する. 電位の変化を意識して回路方程式を理解する. 磁場の定義を原理として, ローレンツ力, 電流がつくる磁場, 電流が磁場から受ける力について理解する. ファラデーの電磁誘導の法則を原理として, 磁束, 誘導起電力, 自己誘導, 相互誘導を理解する. 電磁気学の各法則の関連性や意味, 論理の体系に触れ, 大学での電磁気学の必要性を意識させる. 交流回路では, RLC 直列, 並列の回路方程式, インダクタンス, リアクタンス, インピーダンスを理解する. 共振, 電気振動, 電磁波について理解する.			
2	第4部 原子・分子の世界 第1章 電子と光 電子の電荷と質量, 光の粒子性 X線, 粒子の波動性 第2章 原子・原子核・素粒子, 原子モデル 放射線と原子核 原子核反応と核エネルギー 素粒子と宇宙 <入試問題研究 I > 単元別の研究 ・力学, 熱, 波動, 電磁気, 原子 大学別の研究 ・国公立大学, 私立大学			陰極線の性質について理解し, 電子について学ぶ. トムソンの実験から電子の比電荷測定と, ミリカンの実験から電子の電気量測定を理解する. 光電効果から光の粒子性と光量子仮説について学ぶ. コンプトン効果から X線の粒子性について理解する. 電子線の回折現象から電子の波動性について理解する. ラザフォード散乱の実験を通して, 水素原子のスペクトルを説明するために, ニュートン力学にボーアの量子条件と振動数条件を加えて説明するボーアモデルを扱う. 前期量子論時代を経て, 量子力学の必要性やこれからの物理学を意識させる. 原子核の性質, 結合エネルギー, 放射線の性質, 半減期について理解する. 素粒子や宇宙について紹介する. 実際の入試問題に取り組むことで, 物理法則の理解を深める.			
3	<入試問題研究 II > 特別編成授業			入試問題を中心とした演習形式の授業編成を行い, 大学ごとの特色も研究する.			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験を通して, 日常生活における現象に関心を持ち, 科学的な視点をもって考える態度を身につけてください. ・教科書の内容の完璧な理解を目指し, 授業前後に, しっかり読んでください. ・学習の定着をはかるために, 問題演習を自主的に行ってください. その際, 計算用紙をたっぷり使って自分の手で図を描いたり, 何度も計算しなおしたりしてください. 問題集, 小テスト, 定期試験や模擬試験は繰り返し復習することが大切です. 別解を考えるとより理解が深まります. 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	生物	単位数	5 単位	履修学年	6 年（理系）
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生物や生物現象に主体的に関わり，科学的に探究する能力と態度を育成する。 ・生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的な自然観を育成する。 ・科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また，科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また，見通しをもって観察・実験などを行い，得られた結果を分析して解釈し，表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート，実験レポート（考察）等を基準として評価する。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において，見通しをもったり振り返ったりするなど，自ら学習を調整しようとしているか。また，粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート，実験レポート（振り返り）、課題提出，振り返り評価等を基準として評価する。</p>						
使用教材	教科書：生物（数研出版） 副教材：スクエア最新図説生物（第一学習社） 問題集：リードα生物（数研出版）、セミナー生物（第一学習社）、生物基礎問題精講（旺文社）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第6章 植物の環境応答 1. 植物の生活と植物ホルモン 2. 発芽の調節 3. 成長の調節 4. 器官の分化と花芽形成の調節 5. 環境の変化に対する応答 6. 配偶子形成と受精 第7章 生物群集と生態系 1. 個体群の構造と性質 2. 個体群内の個体間の関係 3. 異なる種の個体群間の関係 4. 生態系の物質生産と物質循環 5. 生態系と人間生活			<ul style="list-style-type: none"> ・植物の種子が，周囲の環境を感知して休眠・発芽するしくみと，その意義を理解する。 ・植物は器官からなり，これらの器官への分化を通して植物が成長していくことを理解する。 ・植物が，病気や食害からどのように自身を守っているのかを理解する。 ・被子植物における配偶子形成と受精のしくみを理解する。 ・生態系は異なる生物種からなる個体群の集まりで構成されており，個体群どうしは互いに深く関係していることを理解する。 ・生物群集の中で多様な生物種が共存できるしくみを理解する。 ・生態系における物質の循環とエネルギーの移動について理解する。 ・生態系や生物多様性の保全の重要性を理解する。人間活動によって生態系に影響を及ぼすしくみを理解する。 			
2	共通テスト対策・二次試験対策			<ul style="list-style-type: none"> ・実践的な問題演習によって，共通テスト・二次試験に対応できる基本力を身につける。 			
3	共通テスト対策・二次試験対策			<ul style="list-style-type: none"> ・実践的な問題演習によって，共通テスト・二次試験に対応できる応用力を身につける。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に集中し，積極的な学習態度で臨むこと。 ・新聞・ニュース等で報道される生物現象に関する記事を読むこと。 ・自然に関心をもち，科学的に探求しようとする事。 ・適宜問題演習を行い，学習の定着をはかるとともに，応用力を身につける。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	保健体育	科目	体育（男女）	単位数	3単位	履修学年	6年	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・集団行動を通じて集団の中で個人の役割・協調性を考えることができる。 ・運動技能の習得だけでなく、運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう自ら進んで種目を選択し、運動に取り組める。 ・個々の能力に応じた課題の解決を目指して、活動のしかたを考え工夫する力を身につける。 ・運動の技能や体力を向上させるとともに、公正、協力、責任、参画、共生等に対する意欲を高め、健康、安全を確保して、生涯スポーツの重要性を考え、豊かなスポーツライフを実現するための知識や方法を身につける。 							
評価の観点 評価基準	【知識・技能】							
	<ul style="list-style-type: none"> ・身につけた技能や動き等の出来映えを確かめたり、新たに技や動き及び得意技を身に付けたりして、記録や技に挑戦したり、参加者の体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等に応じてルールを工夫するなどして試合をしたり、発表したりできている。技術の名称や行い方、ルールを理解している。 							
	【思考・判断・表現】							
使用教材	「ステップアップ高校スポーツ2022」「現代高等保健体育」「現代高等保健体育ノート」（大修館）							
	学期	学習内容			学習のねらい			
1	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ①バドミントン ②バスケットボール ③バレーボール ④ソフトテニス ⑤ソフトボール ⑥サッカー ⑦陸上競技 ⑧ダンス 			} から1種目選択	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画や、自己の体力や生活に応じた運動の計画を立て、実生活に役立てることができるようになる。 <1・2学期共通> ・自らが選択した種目で、自己の目標を達成できるよう努力させる。 ・自己や仲間の体力や能力に応じた課題、目標を設定して運動する。 ・リーダーを中心に、全員で分担・協力して工夫して活動を行う。 			
	<ul style="list-style-type: none"> ・①～⑧から1種目選択 ・体育理論（2時間） 				<ul style="list-style-type: none"> ・ルールを理解し、ゲーム運営・審判ができる。 ・チームの能力に応じて作戦をたて、個人の能力を最大限に引き出す。 ・ゲームを通して運動の楽しさや喜びを味わう。 ・生涯スポーツの見方・考え方、ライフスタイルに応じたスポーツ、日本のスポーツ振興、スポーツと環境について理解させる。 			
2	<ul style="list-style-type: none"> ・①～⑧から1種目選択 ・体育理論（2時間） 							
	<ul style="list-style-type: none"> ・①～⑧から1種目選択 ・体育理論（2時間） 							
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・身体を動かすことの楽しさや、主体的に仲間と協力することの大切さを理解させる。 ・運動技能の習得・体力の向上を図るとともに、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けて、継続していける運動への興味・習慣を身につけさせる。 ・体育理論を適時実施する。（6時間） 							

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	芸術	科目	音楽Ⅰ	単位数	1 単位	履修学年	6 年
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・古今東西の様々な音楽にふれ、表現と鑑賞の能力を伸ばす。 ・日本及び世界の音楽に親しみ、そのルーツを探り、地域や時代の異なった音楽どうしのかかわりに関心を持つ。 						
評価の観点・評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な音楽に興味・関心を持っているか。 ・意欲的・主体的に音楽活動を行っているか。 ・表現力豊かに演奏できているか。 ・様々な音楽や音楽文化に対して理解を深めているか。 ・実技テスト、練習中の取り組み、鑑賞感想文等により総合的に評価する。 						
使用教材	教育芸術社「MOUSA1」 カワイ出版「高校生のための音楽ノート」、自作プリント						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<ul style="list-style-type: none"> ・アヴェ マリア ・歌の翼に など ・ありがとう ・なごり雪 など ・オペラ「フィガロの結婚」 もう飛ぶまいぞ この蝶々 わが胸の燃ゆるは ・実技試験 			歌曲の発声方法を復習し、歌曲について理解を深める。 ポピュラーソングに親しむ。 オペラについて学習し、理解深める。また、オペラアリアに親しむ。 学習内容の確認を行う。			
2	<ul style="list-style-type: none"> ・グループアンサンブル ・日本を含めての諸民族の音楽 ・実技試験 			少人数のグループを作り、合唱・合奏など各グループで選曲して練習することにより自主性を重視した音楽活動を目指す。 発表会形式で実技テストを行う。			
3	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱 			声によるアンサンブルの魅力を追求する。			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を「自ら学ぶ」態度と方法を身に付けるため、積極的に取り組む。 ・自分の知っている曲や興味のあるジャンルを元に、その他の曲とのかかわりを見つける。 ・音楽と文化歴史は密接に関わっているので、総合的な知識と技能を身につける。 						

科目の年間授業計画(シラバス)

教科	芸術	科目	美術 I	単位数	1 単位	履修学年	6年
到達目標	美術の創造活動を通して、美的体験を豊かにし、美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。						
評価の観点・評価基準	<ul style="list-style-type: none"> * 意欲的に継続して制作することができたか。 * 主題や自分の意図に応じた表現方法を工夫し、創造的な表現力を養うことができたか。 * 制作を身近に感じ、自ら課題を見つけ考えることができたか。 * 唯一無二の自他の作品の大切さに気付き、尊重することができたか。 * 造形的なよさや美しさを感じ取り、制作することができたか。 * 準備から片付けまで主体的に取り組むことができたか。 						
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> * 教科書(4年次のものを引き続き使用する。) * スケッチブック、絵の具などは4年次の授業と同様各自準備し、一括購入はしないが、購買で購入可。(詳しくは最初の美術の授業時に説明する。) 						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	○課題選択作品 平面、立体のいずれか、または両方 (生徒自身でテーマを決め、計画的に制作)			<ul style="list-style-type: none"> * 興味、関心、意欲、能力に応じて自らの課題を見つけ、制作に臨む態度を養う。 * 材料や用具の特性を理解し、多様な技法を身につける。 * 材料を生かし、独創的な表現をしようとする態度を養う。 			
2	○卒業制作 個人または共同で制作する。 ○鑑賞 教科書、生徒作品、図録、DVD等の利用			<ul style="list-style-type: none"> * 他者の個性、興味、価値観を理解し、互いに相談協力しながら自らの課題を発見し、制作に臨む態度を身につける。 * 造形的なよさや美しさを感じ取り、完成する喜びを実感する。 * 作者の心情や意図を自分なりに推し量り、表現の多様性や作品の良さに気付き、それらを味わう心を養う。 			
3	○自由制作とまとめ			* 各自のテーマに応じた活動をする。			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> * 制作は授業時間内に終わることを原則とするが、希望者には放課後美術室での制作を許可する事もある。 * 準備、制作、片づけともに主体的に取り組むよう指導する。 * 興味、関心、意欲、能力には個人差があるので、各講座の様子によって課題を多少変更することがある。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	単位数	1単位	履修学年	6年
到達目標	<p>・書道の幅広い活動（漢字の書・仮名の書・漢字仮名交じりの書）を通し表現力を身につけ、書の美しさを感じとる。</p> <p>・活動を通し、書を愛好する心情を育てる。</p>						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】						
	書の表現や、発展的な古典を理解し、効果的な技法を身につけ、臨書することができたか。						
	【思考・判断・表現】						
	学習した古典の特徴を汲み取り、意図に応じて表現を工夫できたか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】						
	書の表現や鑑賞など、幅広い活動に取り組むことができたか。						
使用教材	書道Ⅰ（書Ⅰ704）教育出版・自作プリント						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	○隷書の学習			隷書の基本的な用筆・運筆・結構を古典を臨書・鑑賞することにより習得し、その特徴を理解する。			
	○草書の学習			草書の基本的な用筆・運筆・結構を古典を臨書・鑑賞することにより習得し、その特徴を理解する。			
2	○仮名の学習			仮名の成立を理解し基本を学んだ後、仮名の作品を鑑賞し臨書する。 学習した作品を題材として創作する。			
	○篆刻・刻字の学習			篆刻・刻字を学ぶ。			
3	○漢字仮名交じりの書の学習			身近な言葉や詩文を題材に漢字・仮名の調和をはかる。			
学習上の留意点	さまざまな書体の、表現・鑑賞を通し、自分の課題点を見極め、それぞれの個性を伸ばすようにさせる。						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅢ	単位数	4単位	履修学年	6年
到達目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活においても活用できるようにする。また、大学入試の長文問題に対応する実力を養成する。						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】</p> <p>(1) 必要な情報を聞き取り、概要や要点を捉えることができる。（聞くこと）</p> <p>(2) 語彙・文法・語法を身につけ、英文の読解が正しくできる。（読むこと）</p> <p>(3) 基本的な語句や文を用いて、考えや気持ちを話して伝えることができる。（話すこと・やり取り）</p> <p>(4) 考えや気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができる。（話すこと・発表）</p> <p>(5) 語彙・文法・語法を身につけ、正しい英文を書くことができる。（書くこと）</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>(1) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、必要な情報を聞き取ったり、読み取ったりできる。（聞くこと・読むこと）</p> <p>(2) 情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話し合ったりすることができる。（話すこと・やり取りと発表）</p> <p>(3) 目的や状況に応じて、社会的な話題などについて論理的に書くことができる。（書くこと）</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>(1) 授業や家庭学習において、主体的、自律的に英語を聞こうとしている。（聞くこと）</p> <p>(2) 授業や家庭学習において、自律的に英語で書かれたものを読もうとしている。（読むこと）</p> <p>(3) 授業中において、主体的、自律的に英語で伝えようとしている。（話すこと・やり取り）</p> <p>(4) 授業中の発表の場面で、主体的、自律的に英語で話そうとしている。（話すこと・発表）</p> <p>(5) 授業や家庭学習において、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている。（書くこと）</p>						
使用教材	CROWN English Communication Ⅲ（三省堂） ※問題演習・リスニング練習など発展的内容は、適宜プリント・問題集によって補足						
学期	学習内容			学習のねらい			
1学期	<p>< CROWN English Communication Ⅲ ></p> <p>L1 An American in the Heart of Japan</p> <p>L2 Design for Whom?</p> <p>L3 God's Hands</p> <p>Part 2</p> <p>L4 Be Aware! Be Engaged!</p> <p>L5 Only a Camera Lens between Us</p> <p>・語彙力増強</p> <p>・共通テスト対策</p> <p>・私立大・国公立二次入試問題演習</p>			<p>・文法や語法などに注意して、本文内容を正確に読み取れるようにする。</p> <p>・説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読を行う。</p> <p>・論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連などを考えながら読めるようにする。</p> <p>・未知の語の意味を推測したり、背景となる知識を活用しながら読めるようにする。</p>			
2学期	<p>< CROWN English Communication Ⅲ ></p> <p>L6 The Magic of Reality</p> <p>L7 Being Bilingual</p> <p>Part 3</p> <p>L8 Green Revolution, Blue Revolution</p> <p>L9 What's Not for Sale?</p> <p>L10 Stay Hungry, Stay Foolish</p> <p>・速読練習・リスニング演習・語彙力増強</p> <p>・共通テスト対策</p> <p>・私立大・国公立二次入試問題演習</p>			<p>・日常生活・現代社会の様々な問題に関心を持ち、考え、自分の意見を深めさせる。</p> <p>・事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。</p> <p>・過去の入試問題や、それに準ずる実践的演習問題を数多く解くことで、共通テストや二次試験に対応できる実践力を身につける。</p>			

3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・速読練習・リスニング演習・語彙力増強 ・共通テスト対策 ・私立大・国公立二次入試問題演習 	
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の予復習を欠かさず、地道に努力する。 ・英語の知識だけでは対応できない高度な内容の文章も扱うので、総合的な知識力が必要となる。それに向けて、日常から様々なテーマに好奇心を持って、周辺知識を深めておく。 ・語彙の増強やリスニング演習なども含めて、総合的・計画的に学習を行う。 	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	外国語	科目	論理・表現Ⅲ	単位数	2単位	履修学年	6年	
到達目標	<p>英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。また、4、5年で学んだ、文法・語法等の知識を活かし、いろいろな表現形式を用いて様々なジャンルの英文をパラグラフ構成を考慮しながら書く技術を身につける。</p> <p>教科書で上記のことを学習しながら、客観問題集等の演習、二次の記述問題、和文英訳や自由英作文の練習を積み重ね、大学入試に対応する実力を養成する。</p>							
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】</p> <p>(1) 基本的な語句や文を用いて、情報を考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やりとりを通して必要な情報を得たりすることができる。(話すこと・やり取り)</p> <p>(2) 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話し伝えることができる。(話すこと・発表)</p> <p>(3) 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書くことができる。(書くこと)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>(1) 意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができる。(話すこと・やり取り)</p> <p>(2) 意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができる。(話すこと・発表)</p> <p>(3) 基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。(書くこと)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>(1) 授業中において、主体的、自律的に英語を用いて伝え合おうとしている。(話すこと・やり取り)</p> <p>(2) 授業中の発表の場面で、主体的、自律的に英語を用いて話そうとしている。(話すこと・発表)</p> <p>(3) 授業や家庭学習において、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている。(書くこと)</p>							
使用教材	教科書	CROWN English Logic and Expression III (三省堂)						
	副教材	英文法・英作文教材、補助プリント等						
学期	学習内容			学習のねらい				
1学期	<p><CROWN English Logic and Expression III></p> <p>PART2 機能表現編</p> <p>Lesson 8 ~ Lesson 10</p> <p>パラグラフィティング演習</p> <p>入試問題演習</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・ 主題を決め、様々な種類の文章を書く。 ・ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめることができる表現力を身につける。 ・ 多様な考え方ができる話題について、立場を決めて意見をまとめる力をつける。 ・ 入試問題に対応できる力を身につける。 				
2学期	入試問題演習			<ul style="list-style-type: none"> ・ 入試問題に対応できる力を身につける。 				
3学期	入試問題演習			<ul style="list-style-type: none"> ・ 入試問題に対応できる力を身につける。 				
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な表現を含めて、いろいろな構文と表現形式で、自分の考えを英語で表現できるようにする。さらに、パラグラフ・ライティングの上達を目指す。 ・ 文法力・語法力を演習によって補い、例文を暗記させたり、英文を書く際に必要な知識の整理をさせ、課題英作文の添削等を十分に行えるようにする。 							

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	総合的な探究の時間	科目	総合的な探究の時間	単位数	Ⅰ単位	履修学年	6年
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようになる。 ・実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する力を養う。 ・探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。 						
評価の観点・価値基準	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科等及び総合的な探究の時間で習得する知識及び技能が相互に関連付けられ、社会の中で生きて働くものとして形成されている。〈知識・技能〉 ・課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ、発表などの探究の過程を通して、未知の状況においても思考・判断・表現し、それらを活用できる力が身に付いている。〈思考力・判断力・表現力〉 ・自分自身に関するだけでなく、他者や社会との関わり方にまで言及することができている。〈主体的に取り組む態度〉 						
使用教材	Benesse『探究ナビ』						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	1. 論文の書き方を学ぶ。 2. 論文を執筆する。			<ul style="list-style-type: none"> ・論文の構成や作成の手順、表記や引用の仕方等を身につける。 ・5年時に探究したことを文章としてまとめながら、研究内容をより一層深める。 			
2	3. 作成した論文を発表する。			<ul style="list-style-type: none"> ・スライド等を用いて発表し、研究成果を他者に伝えるための表現を工夫する。 ・生徒同士で批評し合うことのできる場を設ける。 			
3	4. 論文をまとめる。			他の生徒との交流を通して再度研究内容を見直し、まとめる中で、更なる研究内容の深化を図り、大学での学びへと繋げる。			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を整理・分析したり、知識や技能に結び付けたり、考えを出しながら問題の解決に取り組む。 ・明らかになった考えや意見などをまとめ・表現し、そこからまた新たな課題を見つけ、更なる問題の解決を始めるといった学習活動を発展的に繰り返すことのできる機会とする。 						

特別活動の年間授業計画（シラバス）

教科	特別活動	内容	ホームルーム活動 生徒会活動 学校行事	単位数	1 単位	履修学年	第6学年
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・最高学年として自覚し責任ある行動をとれるようにする。 ・自己の在り方生き方や進路について考察できるようにする。 ・社会生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。 						
評価 の観 点・ 評価 基準	<ul style="list-style-type: none"> ・活動への自主性や主体性、責任感、創意工夫など、取り組みの姿勢を振り返らせる。 ・活動から学んだことや反省を活かし、自分の生活を見つめ直させる。 						
学期	指 導 内 容 等						
		ホームルーム活動		生徒会活動			学校行事
1	<ul style="list-style-type: none"> ・最高学年としての自覚を持たせ集団生活に適応する能力を育成する。 ・学習や諸行事に最善を尽くし、将来の自分の在り方を考えさせる。 ・学年ロング 		新生対面式 クラス役員選出 体育祭 芸術鑑賞 クラスマッチ 委員会活動			始業式 体育祭 中間考査 期末考査 校内人権学習 終業式	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みを反省し、生活のリズムを取り戻すとともに文化祭の成功に向けての意識づけとクラスの団結を高める。 ・自分の適正や進路について考え、将来を展望できるように指導する。 ・学年ロング 		文化祭 生徒会役員改選 ピンクシャツ運動			始業式 避難訓練 文化祭 校外研修 中間考査 期末考査 校内人権学習 終業式	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の進路の実現に向けて指導する。 ・学年ロング 					始業式 進路決定 卒業式	
学習 上の 留意 点	さまざまな活動を通して、集団の意義と個の役割の大切さを学ばせ、リーダーシップや友だちとの協調性を育てていくことを期待する。						